

【馬術】人馬一体 天羽が優勝 女性チャンピオンは史上2人目 全日本ヤング馬術選手権



全日本総合ヤングジュニア選手権が9月7日から9日まで、山梨県馬術競技場で行われた。

ヤングライダー選手権競技兼JOCジュニアライダーオリンピックカップ(総合馬術競技)で天羽美穂(経済4・富川高)・ウオンテッド号が大会史上2人目の女性による優勝に輝いた。

相田一善主将(商4・宮城農高)・ミスターグリーン号が3位、島田学(経営4・龍谷高)・スタードゥリオル号が5位など、4年次生全員が入賞し、最大の目標である全日本学生大会優勝に向け最高のスタートを切った。

「自信ができました」と言うように、今大会は天羽の実力が全面に出た。初日の「馬場馬術」では4位と上位に食い込めなかったものの、いつもよりアップダウンの激しい「耐久」ではノーミスで3位。「余力」では、人馬とも疲れがピークに達した中、持ち前のプレッシャーに負けない“力強い”騎乗を見せ、勝利をつかみ取った。

試合後、天羽は「学生生活最後の全日本総合で初めて優勝出来てとてもうれしかったです」と優勝を心から喜んでいた。

(山室 綱寛・文2)

〔9月15日/ニュース専修11面〕

【水泳】男子競泳陣が大活躍 東島、衣笠、岩田が優勝 関東学生水泳

8月2日から4日まで、東京辰巳国際水泳場で関東学生水泳選手権が行われ、東島一生(法3・沼津学園高)が400メートル自由形で4分3秒69、衣笠祐史(商4・姫路工高)が100メートル背泳ぎで57秒53、200メートル個人メドレーで2分7秒22、岩田直也(商2・湘南工科大附高)が200メートルバタフライで2分4秒24とそれぞれ優勝。岩田は100メートルバタフライでも4位入賞した。

東島は「調子は下降気味だったが、本来の持ち味を出せ、理想的なレースが出来た」とうれしさを語った。対照的に衣笠は「勝って当たり前だったし、タイムも平凡で残念」と、胸の内を明かした。「泳ぎこめてなかった」と岩田は言うが、チームの一部残留に必要な得点をもたらした。

衣笠は、9月21日から24日まで行われる国民体育大会に兵庫県代表として選出された。

(岩谷 純一・文1)

[9月15日/ニュース専修11面]

【準硬式野球】 昨年に続きベスト8 全日本大学準硬式野球



全日本大学準硬式野球選手権が8月19日から24日まで、北海道札幌市(市営円山球場ほか)で、各地のリーグ戦を勝ち抜いた23校が出場して行われた。

1回戦(12-0)、2回戦(5-1)を順調に勝ち抜いた専大は22日の準々決勝、九州産業大に1-3で敗れ、昨年に続いてベスト8で涙をのんだ。

春季リーグで抜群の成績を残し、チーム状態も良い中で優勝を目指して臨んだ大会だったが、トーナメントの厳しさを知る結果となった。

中山真吾主将(経営4・星稜高)は「1点目は自分たちのミスで取られた。これからは攻守にわたってミスをなくすよう、チームの気を引き締めていきたい」と気持ちを切り替えていた。

連覇へ好スタート

9月3日から東都大学準硬式野球秋季リーグが開幕し、専大は第1週・八王子市民球場で亜大と対戦。開幕2連勝で勝ち点を挙げ、春秋連覇へ向け、好スタートを切った。

(桃沢 薫・商3)

[9月15日/ニュース専修11面]

【人 Zoom UP】伊藤 孝志 バasketボール部



「行雲流水」。Basketボール部の伊藤孝志(商1)を見てみるとそんな言葉を連想させられる。実際、彼のBasketに対する思いは、熱く燃えているはずなのに、表面上は何の執着もなく自然に流れる川の水のように感じられる。内に秘めた思いを淡々と話す彼については、「おとなしい性格が試合で一変する」と新関光一監督は語る。

Basketをはじめたのは小学5年生の時。「何でもいからスポーツをやりたいかった」という彼の目に留まったのがミニBasketであった。なぜ?と聞くと「家から近くて人数もちょうど良かったから」とあっさり答える。そんなきっかけで始めたBasketであったが、中学へ進むとジュニアオールスター福岡代表に選ばれ、優勝を果たす。「ただ身長があるってだけで選ばれたんですけどね」と本音を語る。その後、福岡大附属大濠高へジュニアオールスターのスタメン全員一緒に入学するが、入学前に足首を脱臼し、夏まで復帰できず、この時初めてBasketをやめようと考えた。しかし、やめなかった。「理由なんて特にありません。ただ医者が治るっていったから」とまたもあっさり答えてくれた。

高校2年のウインターカップではスタメンで出場するも、試合は自分のファウルで逆転負けしてしまう。「この時は頭が真っ白になって、気付いたら泣いていました」と伊藤の顔に初めて熱いものが垣間見えた。

その後、専大へ入学。センターからフォワードへコンバートされ、先に行われた関東大学新人戦(6月)で優勝し、新人王に輝いた。

今年の専大は「高く」そして「速い」。伊藤はその一端を担う上で、欠かすことの出来ない選手である。9月から関東学生リーグが始まった。素晴らしいチームメートに囲まれ、伊藤はさらに高く飛躍する。

(宮川 亮佑・文3)

[9月15日/ニュース専修11面]